

分かる快感!

## Z会ナビ

算数

▶理科

歴史

地理

お題

カンガルーの子はおなかの袋の  
中で何をしているの?

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!

Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

カンガルーというと、子どもが母親のおなかの袋から顔を出す様子が思い浮かびますが、子どもは袋の中で何をしているのでしょうか。

- ① 草を食べている。
- ② 乳を飲んでいる。
- ③ 羊水に浮かんでいる。

先月、オーストラリアに旅行に行き、カンガルーと触れ合ってきました。オーストラリアにすむ動物といえば、カンガルーやコアラが有名ですね。これらは哺乳類の仲間で、おなかに袋を持つことから「有袋類」と呼ばれます。

## カンガルーの妊娠期間は1か月!

カンガルーの子どもは、おなかの袋から生まれるわけではありません。私たちヒトと同じく、子宮の中から産道を通して外に出ます。妊娠期間わずか1か月で生まれる子どもは、豆粒くらいの大きさしかありませんが、自力で袋を自指します。袋の中には乳首があり、子どもが吸いつくとふくらんで、口から抜けなくなります。それから30~40週間ほど、子どもは袋の中で乳を飲んで過ごします(答えは②)。

## カンガルーはたいばんを持たない

なぜ超未熟児が母親の体の上を大移動しなければならぬのかというと、有袋類はたいばんを持たないからです。たいばんがないと、子宮の中で母親から酸素や栄養をもらうことができません。だから、早く生まれて乳を飲むのです。



イラスト・瑞木匠

ちよう み じゆく じよう たい  
超未熟な状態

なんだか大変そうな話ですが、たいばんを持たない有袋類には、生き残る上で有利な点はないのでしょうか。

じつは、カンガルーは、袋の中で子どもを育てている間、次の子どもを妊娠することができます。しかも、カンガルーは、受精卵の成長をしばらくの間止めることができるので、兄・姉のいる袋が空くまで、弟・妹が順番待ちをすることができます。つまり、次々に子どもを産める(=たくさん子孫を残せる)のです。

この他にも、たいばんを持たないことで、たいばんをつくったり維持したりするために必要なエネルギーを節約できることや、子どもが大きくなる前に体外に出るので、母親が敵から逃げやすいことなど、種族が生き残る上で有利な点がたくさんあります。だからこそ、オーストラリアでは、有袋類が繁栄できたのです。

## 「つくらない」という戦略

生物にとって、たいばんのような器官を「つくらない」ことは、体の負担や時間を節約する戦略の一つです。その器官を持たない不便さと、節約できる便利さのどちらが勝つかで、「つくらない」戦略が不利か有利かが決まります。とはいえ、生物は、自分でその戦略をとるかどうかを選ぶことができません。生まれもった特徴が戦略として不利なら子孫を残すことなく死んでしまい、有利なら生き残って子孫を残すことができます。有利な戦略を偶然身につけた生物の子孫が、結果的にいま生き残っているのです。

【Z会・杉田真希】

## ! 今回の教訓

「ない」が有利になることもあります。でも、何を持ち、何を持たずに生まれるかは時の運。自分の願う通りになるとは限りません。



博士(理学)。

杉田真希さん 2011年Z会入社。  
小学生向けの理科の教材編集を担当。  
スキューバダイビングが大好き。  
1983年、東京都板橋区生まれ。